

ハイグレード・オセアニア・ボンド・オープン・フレックスヘッジ(毎月決算型) (愛称: 杏の実フレックスヘッジ) 最近の運用状況について

2015年8月25日

平素は、「ハイグレード・オセアニア・ボンド・オープン・フレックスヘッジ(毎月決算型)(愛称: 杏の実フレックスヘッジ)」(以下、「杏の実フレックスヘッジ」といいます。)をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
当ファンドの最近の運用状況について、お知らせいたします。

《基準価額・純資産の推移》

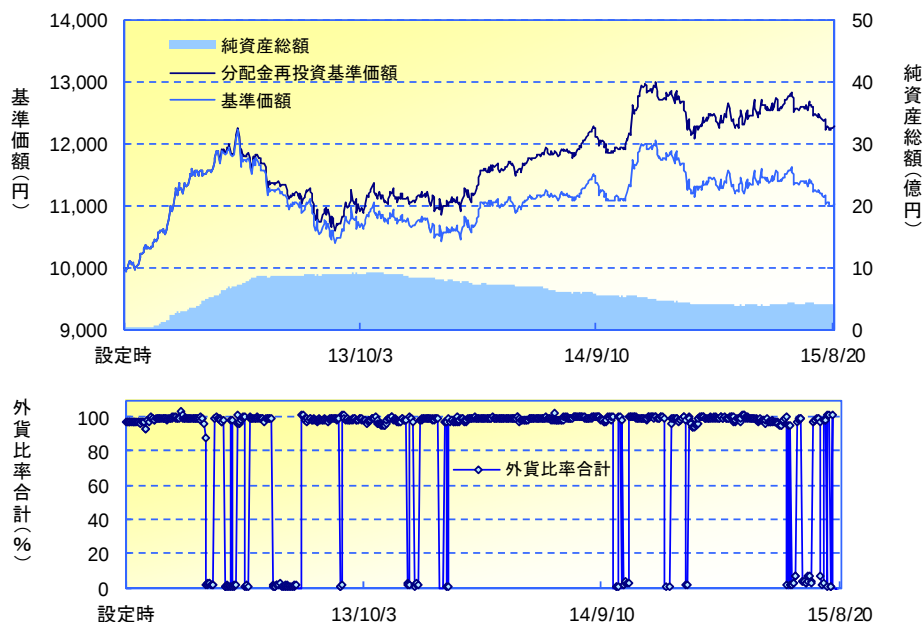
※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

当初設定日(2012年10月26日)～2015年8月21日

2015年8月21日現在

基準価額	11,012 円
純資産総額	398百万円

期間別騰落率			
期間	ファンド	豪ドル	NZドル
1カ月間	-2.8 %	-1.3 %	-0.2 %
3カ月間	-2.3 %	-5.2 %	-7.6 %
6カ月間	-0.8 %	-2.5 %	-8.6 %
1年間	+2.2 %	-6.1 %	-5.8 %
3年間	----	----	----
5年間	----	----	----
年初来	-4.6 %	-7.7 %	-12.9 %
設定来	+22.6 %	+9.0 %	+24.4 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。為替の騰落率は、投資信託協会が指定した金融機関によるわが国の対顧客電信売買相場の仲値を採用し、算出しています。

※「外貨比率合計」は通貨別構成における日本円以外の通貨の合計値です。比率は、純資産総額に対するものです。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

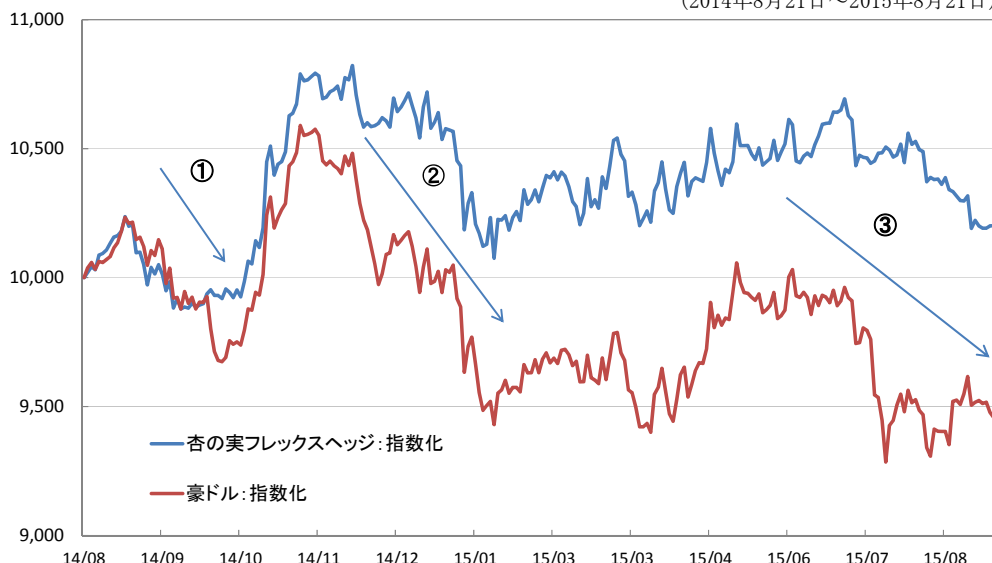
＜運用状況＞

「杏の実フレックスヘッジ」の基準価額は、1年前の2014年8月21日の11,236円から、2015年8月21日現在11,012円となっています。この1年間の分配金の合計額が480円で、同期間の分配金再投資基準価額の騰落率は+2.2%となりました。

下のグラフは、この1年間の「杏の実フレックスヘッジ」の基準価額と豪ドル為替相場の推移を比較したものです。

豪ドル(対円)為替相場と「杏の実フレックスヘッジ」の基準価額(指数化)の比較

(2014年8月21日～2015年8月21日)



※それぞれ2014年8月21日を10,000として指数化しています。「杏の実フレックスヘッジ」(指数化)は「分配金再投資基準価額」を用いています。
 ※豪ドルは、投資信託協会が指定した金融機関によるわが国の対顧客電信売買相場の仲値を採用し、算出しています。
 ※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

この1年間の豪ドル為替相場は大きく上昇と下落を繰り返し、方向感に乏しい動きでした。

この間「杏の実フレックスヘッジ」では、下記3回の豪ドル下落局面を中心に機動的に為替ヘッジを行い、基準価額下落幅の抑制を図るオペレーションを行いました。

(下落局面①) 2014年9月19日～2014年10月16日

ウクライナ情勢の緊迫化など地政学リスクの高まりや、エボラ出血熱の感染拡大、株式などのリスク資産価格の下落を背景に、豪ドルは対円で下落しました。

豪ドル(仲値)	▲4.7%
ファンド騰落率	▲1.3%

(下落局面②) 2014年12月8日～2015年2月5日

原油価格の下落を受けた資源国通貨売りに加え、オーストラリアで利下げ観測が高まったこともあり、豪ドルは対円で大きく下落しました。

豪ドル(仲値)	▲10.0%
ファンド騰落率	▲6.9%

(下落局面③) 2015年6月4日～2015年8月21日

ギリシャ情勢の混迷や、原油価格と中国株式市場の下落から市場参加者のリスク投資姿勢が消極化し、豪ドルは対円で下落しました。

豪ドル(仲値)	▲6.3%
ファンド騰落率	▲3.5%

(8月21日現在ヘッジ継続中)

＜今後の運用方針＞

当ファンドでは、円安時に為替差益を享受することを基本としつつ、金融市場が緊迫していると判断される場合の為替変動を抑制する運用を行っています。その結果、ファンドのリターンを高める運用を追及すると同時に、リスクであるファンドの収益変動率を低下させて安定した運用結果を保っています。

今後につきましても、為替変動リスクを計る指標としての「フレックスヘッジ指数」の特長を十分に生かしつつ、良好なパフォーマンスをめざします。

※フレックスヘッジ指数は、金融市場の緊迫度合いを必ず判断できるわけではありません。

※フレックスヘッジ指数が一定の水準を超えた場合でも、為替ヘッジを行わないことがあります。

※為替ヘッジの方法や指数の計算方法については随時見直しを行うため、今後変更となる可能性があります。

以上

収益分配金に関する留意事項

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

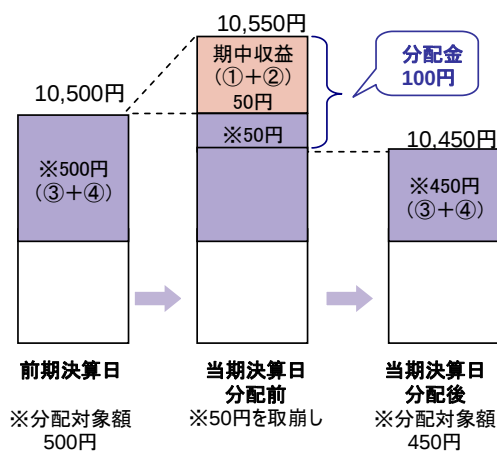
投資信託の純資産

分配金

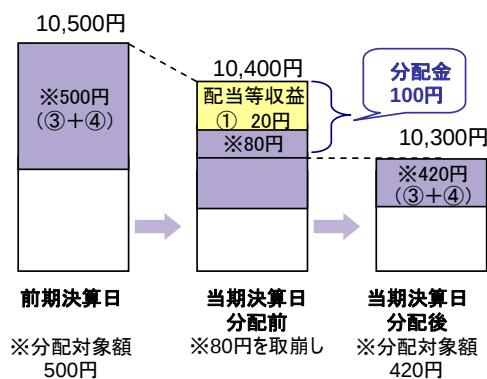
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



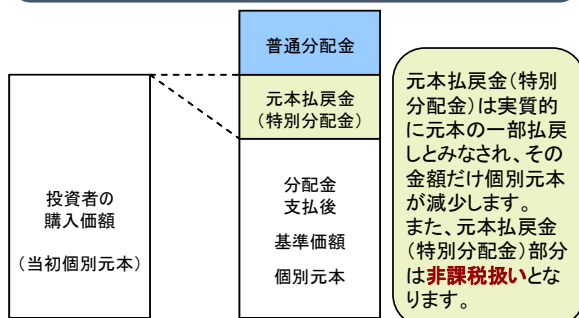
前期決算日から基準価額が下落した場合



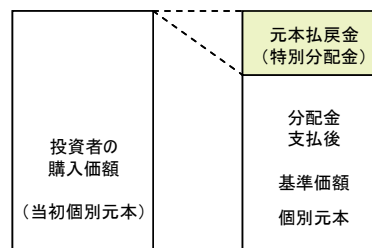
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金 : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

ハイグレード・オセアニア・ボンド・オープン・フレックスヘッジ(毎月決算型)(愛称:杏の実フレックスヘッジ)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- オーストラリア・ドル建ての債券等に投資するとともに、金融市場の緊迫度が高まると判断される場合に為替ヘッジを行ない、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざします。

ファンドの特色

1. オーストラリア・ドル建ておよびニュージーランド・ドル建ての債券等に投資します。
(※)「債券等」には、コマーシャル・ペーパー等の短期金融商品を含みます。
 - ◆投資する債券等は、国家機関(政府・州等を含みます。)、国際機関等、もしくはそれらに準ずると判断される機関およびそれらの代理機関等が発行・保証するものとしします。
 - ◆ポートフォリオの修正デュレーションは、3(年)程度から5(年)程度の範囲を基本とします。
 2. 債券等の格付けは、取得時において AA 格相当以上※とすることを基本とします。
※ムーディーズで Aa3 以上または S&P で AA- 以上もしくはフィッチ・レーティングスで AA- 以上
 3. フレックスヘッジを行なうことにより、為替差損の抑制をねらいます。
 - ◆円安時の為替差益を享受しつつも、金融市場が緊迫していると判断される場合の為替変動を抑制することをねらいます。
 - ・「フレックスヘッジ」について
日本円は、世界の金融市場が緊迫するときに選好され、急騰する傾向があります。
大和投資信託では、この傾向に着目し、為替変動リスクを回避するタイミングを測定する「フレックスヘッジ指数」を独自に開発しました。
指数がある一定水準を超えるなど、金融市場の緊迫度が高まると判断される場合、原則として、為替ヘッジを行ないます。
 4. 毎月 15 日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
 5. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。
 - ・マザーファンドは、「ハイグレード・オセアニア・ボンド・マザーファンド」です。
- ※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

ハイグレード・オセアニア・ボンド・オープン・フレックスヘッジ(毎月決算型)(愛称:杏の実フレックスヘッジ)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

投資リスク

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「公社債の価格変動(価格変動リスク・信用リスク)」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他(解約申込みに伴うリスク等)」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※金融市場の緊迫度が高まると判断される場合に為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図ることをめざしますが、為替変動による基準価額への影響がすべて排除されるわけではありません。

※為替ヘッジを行なう際、日本円の短期金利がオーストラリア・ドルやニュージーランド・ドルの短期金利よりも低い場合は、金利差相当分がコストとなります。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限> 2.7% (税抜 2.5%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.4364% (税抜 1.33%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等

大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

ハイグレード・オセアニア・ボンド・オープン・フレックスヘッジ（毎月決算型）（愛称：杏の実フレックスヘッジ） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
広島信用金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第44号	○			
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第22号	○	○		

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。